

◆ 目黒区 ◆

中小企業の景況

平成27年度第1・四半期
(平成27年4~6月)



目 次

1. 都内中小企業の景況	1
2. 目黒区内中小企業の景況（平成 27 年 4～6 月期）	2
(1) 今期の特徴点	2
(2) 今期の景況と来期の見通し	5
製造業	5
卸売業	9
小売業	12
サービス業	15
建設業	18
(3) 調査員のコメント	21
3. 日銀短観／東京都と目黒区の企業倒産動向（平成 27 年 6 月）	24
4. 特別調査「中小企業の賃上げと人材確保への取り組みについて」	27
5. 中小企業景況調査 比較表・転記表	30

調査の概要

1. 調査時期 平成 27 年 4 月～6 月期（四半期毎実施）
2. 調査方法 面接聴取調査
3. 調査の対象と回収状況

	調査対象事業所数	有効回答事業所数
製 造 業	95	90
卸 売 業	29	28
小 売 業	49	47
サ ー ビ ス 業	59	57
建 設 業	41	37
合 計	273	259

調査実施機関 一般社団法人東京都信用金庫協会

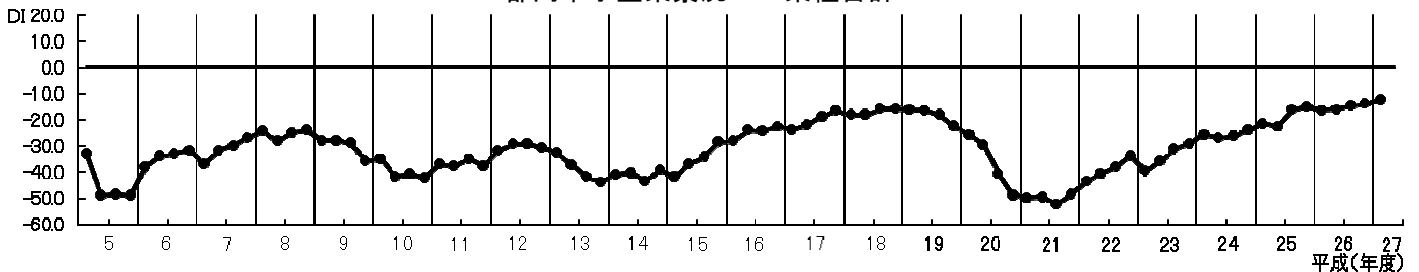
分析実施機関 株式会社帝国データバンク

1. 都内中小企業の景況（平成27年4～6月期）

（一般社団法人 東京都信用金庫協会調べ）

業況、わずかに回復 ～不動産業、来期はプラスに転じる予想～

都内中小企業景況・6業種合計 DI



業況判断DI（季節調整済、「良い」企業割合－「悪い」企業割合）は-12.2（前期は-14.1）と前期に比べ1.9ポイント改善した。業種別に見ると、建設業で多少好感が強まり、製造業・小売業・不動産業で水面下ながらわずかに持ち直した。来期は卸売業で水面下ながら改善し、不動産業でプラスに転じると予想している。

	前 期	今 期	増 減	来期予想	今期との増減
製 造 業	-13.7	-11.5	2.2	-10.2	1.3
卸 売 業	-12.8	-11.5	1.3	-8.7	2.8
小 売 業	-29.0	-26.6	2.4	-25.3	1.3
サ ー ビ ス 業	-14.4	-13.5	0.9	-13.9	-0.4
建 設 業	6.3	8.0	1.7	8.7	0.7
不 動 産 業	-2.1	-0.5	1.6	1.1	1.6
総 合	-14.1	-12.2	1.9	-11.0	1.2

<製造業>

業況はわずかに持ち直した。売上額・受注残・収益はやや改善した。価格面では、販売価格はほぼ横這いで推移し、原材料価格は多少落着きを見せた。

業種別に見ると、「輸送用機械」「化学工業」は前期並の好感が続き、「ゴム製品」「金属製品」「繊維・衣服」は水面下ながら大きく改善した。「精密機械」「建設用金属」「一般機械」「プレス・メッキ」「紙・紙加工品」「皮革関連」は多少厳しさが和らぎ、「食料品」「プラスチック」「木材・家具」「印刷関連」は前期同様の厳しさが続いた。

来期の業況は、水面下ながら改善すると予想している。売上額・受注残・収益は減少に歯止めがかかるとみている。

<卸売業>

業況は前期同様の厳しさが続いた。売上額はわずかに改善し、収益は前期並の低迷が続いた。価格面では、販売価格は若干上昇が弱まり、仕入価格はやや落着きを見せた。

業種別では、「化学製品」はかなり改善し、「機械器具」はプラスに転じ、「食料品・飲食品」は、水面下ながらわずかに持ち直した。一方、「建築材料」はやや低迷し、「鉱物・金属材料」「繊維・衣服」は前期同様の厳しさが続いた。

来期の業況は、水面下ながら持ち直すともみている。売上額・収益はともに減少が一服すると予想している。

<小売業>

業況は6期ぶりに幾分厳しさが和らいだ。売上額・収益はともにやや持ち直した。価格面では、販売価格は上昇から下降へと転じ、仕入価格は前期並の上昇が続いた。

業種別では、「ガソリンスタンド・燃料」「家電・家庭用機械」「家具・建具・じゅう器」は水面下ながら大きく改善し、「飲食品」「繊維・衣服・身の回り品」は多少持ち直した。一方、「飲食店」「スポーツ用品・玩具」はやや低迷し、「医薬品・化粧品」「自転車・自動車」は大幅に厳しさを増した。

来期の業況は、引続き持ち直すともみている。売上額は今期並の減少が続き、収益は持ち直すともみている。

<サービス業>

業況は前期同様の厳しさが続いた。売上額はわずかに持ち直し、収益は前期並の減益が続いた。価格面では、料金価格はやや上昇から下降へと転じ、材料価格はわずかに落着きを見せた。

業種別に見ると、「情報サービス・調査・広告」は前期同様変化なく、「洗濯・理容・美容」は前期同様の厳しさが続き、「自動車整備・駐車場」は幾分厳しさを増した。

来期の業況は今期同様の厳しさが続くともみている。売上額・収益はともに今期並の低迷が続くとみている。

<建設業>

業況は若干好調感が強まった。売上額・受注残・施工高は幾分好調さを強め、収益は大幅に強含んだ。価格面では、請負価格は前期並の上昇が続き、材料価格はかなり上昇幅が縮小した。

業種別に見ると、「設備工事」は大幅に好調感が強まり、「総合工事」はわずかに上向いた。一方、「職別工事」は大きく弱含んだ。

来期の業況は今期並の好感が続くと予想している。売上額は今期同様の増加が続き、受注残・施工高・収益は増勢が一服するとみている。

<不動産業>

業況は前期同様変化なく推移した。売上額は回復の兆しが見え、収益は増減なく推移した。価格面では、販売価格は変動なく推移し、仕入価格は前期並の高い水準が続いた。

業種別に見ると、「建売・土地売買」は多少好感が強まり、「不動産代理・仲介」は水面下ながら幾分持ち直した。

来期の業況は、プラスに転じるとみている。売上額は増加幅が拡大し、収益は今期同様の水準で推移すると予想している。

[注]

○DI (Diffusion Index ディフュージョン インデックス の略)

DI (ディーアイ) は増加 (又は「上昇」「楽」など) したと答えた企業割合から、減少 (又は「下降」「苦しい」など) したと答えた企業割合を差し引いた数値のことで、不変部分を除いて増加したとする企業と減少したとする企業のどちらの力が強いかを比べて時系列的に傾向をみようとするものです。

○ (季節調済) DI・・・本調査における DI は季節調済 DI を使用しています。

季節調済とは、各期ごとに季節的な変動を繰り返す DI を過去 5 年間まで遡って季節的な変動を除去して加工した DI 値です。修正値ともいいます。

○傾向値

傾向値は、季節変動の大きな業種 (例えば小売業) ほど有効で、過去の推移を一層なめらかにして景気の方角をみる方法です。